

子どもたちに感動体験を

奈良県道徳教育振興会議委員

葛城市コミュニティセンター所長補佐 吉藤 行二

水平線に昇る朝日を見ながら一日の活動を始め、沈む夕日をながめつつ一日の活動を終える。潮騒を子守歌に大地のぬくもりを肌で感じながら眠りにつくキャンプ生活。

「このキャンプに参加して自分は変わった。これまでの僕よりも、大胆になったし、自分を飾ることが少なくなったように思う。キャンプの初めのころは、言われたことだけをこなせばいいと思っていたけれど、積極性やリーダーシップが少しずつ自然に身に付くようにリーダーに指導してもらい、みんなのために働けるようになった。野々島での雨の夜、リーダーがテントの雨漏りがなくなるように整備をしていた。雨にぬれながら文句を言うでもなく、むしろ楽しそうに働いている姿にびっくりした。また、自分が今までどれほどぜいたくな暮らしをしてきたかが分かった。無人島は、みんなをたくましく変えてくれた。

これからの生活でそんな自分をどんどん出すことが本当の自分の変化になると思う。」

これは、小学生から高校生までの異年齢集団を引率して無人島へ行ったときの高校生の感想文です。感情が乏しくなったと言われる現代っ子たちも、大自然や仲間の温かい心に感動し、日常生活では感じ得ない様々なことに感謝しながら、泊を重ねるごとにたくましく、また、人を思いやる気持ちも強くなっていきました。

近年、少子化や地域社会における人間関係の希薄化が進む中で、子どもたちの豊かな成長に欠かせない多くの人とのかかわりや、社会や自然などと直接触れあう機会が乏しくなっています。そういう子どもたちに今、私たち大人ができることは、自分の身近にいる一人でも多くの子どもたちとしっかりかかわり、子どもたちに様々な感動を体験させることではないでしょうか。

生活体験や自然体験が豊富な子どもほど、道徳観・正義感が身に付いている傾向があるといえます。私は地域の子どもたちとかかわる中で、感動体験を通して一回りも二回りも大きく成長した子どもたちをたくさん見てきました。子ども会、スポーツ少年団、ボーイスカウトなどの社会教育の場は、子どもたちに日ごろ味わうことのない感動体験を与えてくれます。

しかし、これらの団体の多くは、今、指導者不足で困っています。教職員の皆さんや地域の皆さんの豊富な経験や知識を地域の子どもたちのために貸してください。

学校・家庭・地域が、それぞれに補い合い協力し合って、心豊かでたくましい子どもたちをはぐくんでいくことを強く願ってやみません。

